



林業福島

No. **624**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

8

2016

監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ もっと、たかく



木材産業の活性化のために

福島県木材協同組合連合会

会長 朝 田 宗 弘

本県木材業界は、私の工場がある相双地方を除いては五年前の東日本大震災の影響から少しづつ立ち直り、各企業それぞれが製材加工体制を構築することにより、新たな動きを模索しているところだ。

そのような中で、原材料となる丸太が将来に向け、安定的に供給されるのが業界にとって一番の関心事となっています。それは国内森林のいびつな年齢構成が大きな懸念材料となっているからです。

戦後、盛んに植栽された森林が四〇～六〇年生となり全国的に大きな割合を占めており、それに比べ三〇年生以下の人工林は極端に少なく、二〇年後には国産材が安定的に供給できるか不安を覚えるものです。

そこで行政に望みたいことは、今まで進めてきた間伐中心の施業から皆伐・再造林を積極的に進めてほしいことです。そのためには、モデル林の造成により森林所有者への技術的指導を進めることや苗木の生産体制を確立することが不可欠となります。

そして、このことがひいては放射能により汚染された本県森林のイメージ払しょくにつながることも期待できるのではないのでしょうか。ぜひ早急なる対応をお願いするものです。

もう一つの課題が、本県においても全国と同様、国産材資源の充実に伴い県産材の利活用を拡げることです。

木質バイオマス発電施設が各地に建設され、チップ用材（C、D材）の取り引きが活発になっている反面、建築用材（A、B材）の動きがいま一つです。

将来に向け個人住宅建築が増加することは考えられないことから、公共事業等大規模建築物の木造化・木質化に目を向けることが必要であり、CLTの登場もその期待のあらわれと感じます。

いずれにしても、木材業界は依然として厳しい状況下にあり、さらなる行政の支援をいただきながら業界一丸となりこの難局に対処していきたいと思

《も く じ》

とびら

木材産業の活性化のために

福島県木材協同組合連合会会長

……………朝 田 宗 弘… 1

「植樹リレー」がスタートしました。 … 2

林業研究センターだより…………… 3～4

海岸防災林植樹祭を開催しました。 …… 5

森づくり活動団体への支援について…… 6

第36回東北建築賞受賞「とうわこども園」… 7

普及指導員通信…………… 8

林業労働力確保支援センターだより…… 9

林災防だより…………… 10

「自然に親しむ」…………… 11

木材市況・ふくしま東西南北…………… 12

はなしのひろば・お知らせコーナー…… 13

「植樹リレー」がスタートしました。

公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会



プレート披露



バトン、プレート、短冊

本県では、二年後の平成三〇年春に第六九回全国植樹祭が南相馬市で開催されます。

それに向けて、多くの県民の皆様で森林（もり）を守り育て、未来に引き継いでいくため、県内各地で開催される植樹活動をリレーの形で結ぶ「森林（もり）とのきずなづくり植樹リレー」（第六九回全国植樹祭福島県実行委員会主催）が展開されることになり、その記念すべきスタートセレモニーが、六月一八日（土）にいわき市新舞子浜公園の「市制施行五〇周年記念事業・第四四回いわき市植樹祭」を会場に約二〇〇名の参加者を得て開催されました。

植樹リレーは、県内に四コース（マツコース、ヒノキコース、スギコース及びブナコース）を設け県内五九市町村を巡る予定です。植樹リレーに使用する木製プレートは、県産木材で福島県の形に作られており、スタート後は県内各地の会場に引き継がれ、また、開催地ごとに植樹の証として、市町村名入りの植樹木をイメージした木のピンが刺さっていきます。

植樹リレーでは、このほか、開催地で植樹活動に参加された方々に木

製短冊にメッセージの記入をお願いすることとしています。お寄せいただいたメッセージは、木製プレートとともにゴールの第六九回全国植樹祭会場へ届けられます。

さて、植樹リレーの式典では、県産材のマツで作られた真新しい木製プレートが畠福島県副知事から当協会齋藤会長へ、そして齋藤会長から主催者の清水いわき市長へと手渡され、清水市長がプレート上のいわき市に最初の木ピンを刺し終えプレートを披露すると、会場からは大きな拍手が湧きあがり、参加者全員で植樹リレーのスタートを祝いました。また、プレートを持った市長を中心に写真撮影が行われました。

続いて行われた記念植樹では、来賓者、いわき市長、児童及び緑の少年団がクロマツ三本を植樹し、また、その後行われた一般植樹では、参加者がクロマツ苗木六〇〇本を植樹し、「第四四回いわき市植樹祭」を終えました。

バトン（アカマツの木製プレート）は、南相馬市で七月二一日（木）に行われた子どもたちによる植樹活動に引き継がれました。



一般植樹



記念植樹

林業研究センターだより

成長錐を利用したスギ材部の
放射性セシウム濃度の推移調査



図2 成長錐を用いた標準調査木からの材の採取状況（上）と、採取した材サンプル（下）

林産資源部 主任研究員 小川 秀樹

1 はじめに

現在、樹木内部の放射性セシウム（ ^{137}Cs ）濃度は、樹皮や葉といった外部汚染部位に比べて極めて低い状況にあります。しかし、木材として利用価値の高いスギ材部に関しては、事故から現在までの放射性 ^{137}Cs 濃度の推移（増加？減少？）、さらに将来的にどの程度の濃度になるのか？は林業に携わる我々にとって重要な問題です。特に ^{137}Cs は半減期が約三〇年であり、長期間森林内に存在することから、その推移を明らかにすることが必要です。

福島県林業研究センターでは首都大学東京等の共同研究機関と連携を図りながら、事故当年よりスギ材部

の汚染状況に関する試験研究を進めてきました。今回は ^{137}Cs 濃度の推移に関する調査結果についてご紹介いたします。また、放射能に関する研究を進めるにあたっては、一九八六年のチェルノブイリ事故後の研究が参考となり、前回（平成二六年十一月号）でもその一部をご報告したところです。今回もまずチェルノブイリ事故における研究結果について簡単に触れたいと思います。

チェルノブイリ事故では、樹木材部の ^{137}Cs 濃度について、事故当初からの継続的な調査はほとんど行われていません。しかし、根からの ^{137}Cs 吸収データを利用して、樹木各部位の ^{137}Cs 濃度の推移を計算から予測する試みが数多くなされています。

このような計算予測は、計算する条件によって結果は異なります。IAEAの報告書には、マツ材部の ^{137}Cs 濃度に関する五つの計算予測が示されています（図1）。二つの計算予測では ^{137}Cs 濃度が当初急増し、四年から五年後にピークを示しています。二つはゆっくりとした増加から一定濃度に推移し、残りの一つは二〇年以降まで ^{137}Cs 濃度が増加しつづけています。 ^{137}Cs 濃度が最大となる時期は異なりますが、いずれの計算予測でも当初は ^{137}Cs 濃度が増加するという結果が示されています。

これらの計算予測では ^{137}Cs が根から樹体内に吸収されることが前提となっています。また、根の吸収量はチェルノブイリ周辺地域の測定データであることから、日本の土壌

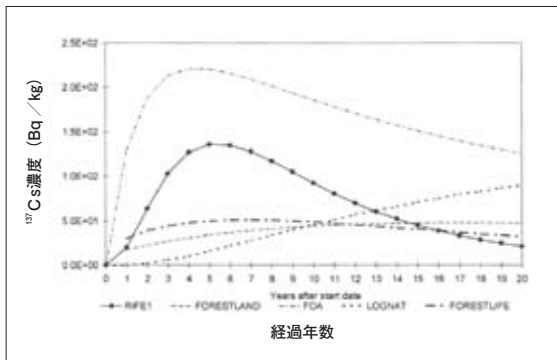


図1 マツの材（幹+枝）の ^{137}Cs 濃度に関する5種類の計算予測（IAEA “Modelling the migration and accumulation of radionuclides in forest ecosystems” (2002) から引用）

や樹種では異なる結果となる可能性があることは前回報告で述べたとおりです。加えて、実測値が少ないことから、計算予測の結果が十分には検証されていないといった問題もあります。

2 成長錐を利用したスギ材部の ^{137}Cs 濃度の測定

当センターでは事故後から継続的にスギ材部の ^{137}Cs 濃度を測定しています。樹木調査では木を伐倒してサンプルを採取する方法がしばしばとられていますが、スギ材部の ^{137}Cs 濃度には個体差があることが知られているため、この方法では ^{137}Cs 濃度の推移を正確に把握することは困難です。そこで標準調査木を設定し、同じ木から少量の材を採取する方法を二〇一二年から試んでいます。採取は成長錐という器具を用いています（図2）。成長錐は筒状で先端がドリルとなっており、樹木に挿入して円柱型の材を採取することができます。本調査では地上高一メートルの高さで樹皮を剥離した後に、成長錐（内径一〇ミリまたは一二ミリ、長さ三〇〇ミリ）を貫入させて随心までの材を採取しました。

調査地の一つである二本松市の調査地における結果を図3に示します。この調査地にはスギ標準調査木を三本設置し（TS1、TS2、TS3）、二〇一二年十二月から年二

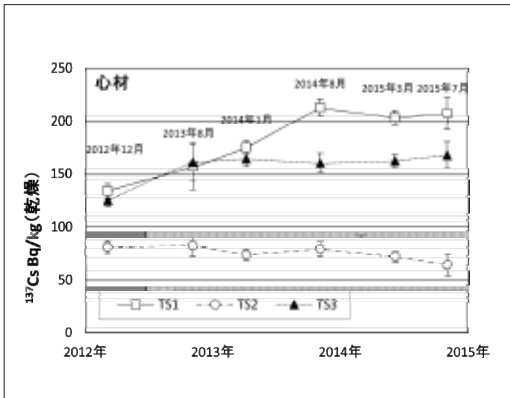
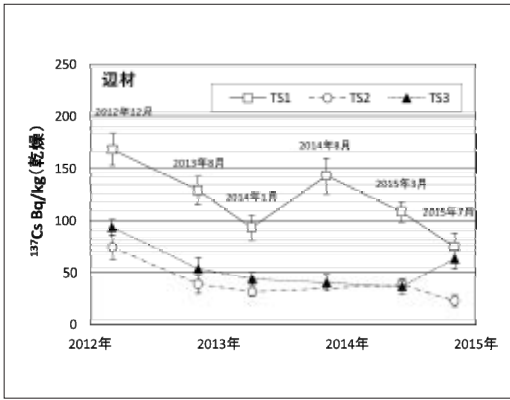


図3 標準調査木 (TS1、TS2、TS3) の辺材 (上) と心材 (下) の乾燥重量あたりの¹³⁷Cs濃度 (Bq/kg) の推移。¹³⁷Cs濃度 (Bq/kg) はすべて2011年3月15日を基準日として減衰補正した。

回(夏期、冬期)のサンプリングを行いました。心材の¹³⁷Cs濃度をみると、三本のうち二本では当初は緩やかな上昇を示し、二〇一三年あるいは二〇一四年以降は一定濃度で推移しています。その他一本は調査開始後からほぼ変化がありませんでした。また辺材の¹³⁷Cs濃度は、多少の増減はあるものの、いずれの標準調査木でも減少傾向にあり、うち二本では二〇一三年以降はほぼ一定濃度となっていました。

3 測定結果の比較

この結果を図1のチェルノブイリ事故後の計算予測と比較すると、心材では初期に¹³⁷Cs濃度が増加するという点では似た傾向にあるように見えますが、増加期間は計算予測に比べて短く、その後は一定濃度となりました。辺材では計算予測とは逆に減少傾向を示し、いずれの標準調査木でも¹³⁷Cs濃度は調査開始時点(二〇一二年十二月)が最大でした。以上から、成長錐調査から得られた実測値は、計算予測とは異なる結果を示しているといえます。

4 考察

このような違いが生じた原因としては二つの可能性が挙げられます。一つは樹体内における¹³⁷Csの移動です。心材と辺材の¹³⁷Cs濃度はそれぞれ増加、減少していますが、これは辺材に含まれる¹³⁷Csが徐々に心材へと移行したことを示していると考えられます。さらにそれぞれの¹³⁷Cs濃度は一定濃度に近づいていきますので、辺材から心材への¹³⁷Csの移行も年々小さくなっていると推察されます。

もう一つは樹体内への¹³⁷Csの移行経路です。チェルノブイリ事故後の計算予測では根からの¹³⁷Cs吸収を前提としています。京都大学の馬原名誉教授は、北海道大学や当センターとの共同調査から、別の移行経路を指摘しています。二〇一二年に当センター内で伐倒したスギとコナラ樹体内の¹³⁷Cs濃度分布や土壌中の¹³⁷Cs濃度の分布傾向を基に、フオールアウト時に樹皮面や葉面を通じて¹³⁷Csが樹体内に移行(直接移行)した可能性が高いことが示されました。直接移行は大気中に¹³⁷Csが存在した初期のごく短い期間に限られておりと考えられるので、その期間に瞬間的に¹³⁷Csが樹体内に移行した可能性があるわけです。

もし直接移行と同レベルで¹³⁷Csが根から吸収され続けているとすれば、辺材あるいは心材の¹³⁷Cs濃度は年々増加し続けると思われます。しかし、今回の調査ではそのような徴候は見られません。以上から、成長錐調査の結果は、フオールアウト時に直接移行によって樹体内に移行した¹³⁷Csが、辺材から心材へとゆつくりと移行したことを示しているのではないかと考えられます。

5 おわりに

以上の結果は、事故から少なくとも四年間においては樹木内の¹³⁷Csは主にフオールアウト時の直接移行によるもので、経根吸収の寄与は比較的小さかったことを示していると考えられます。¹³⁷Csは半減期約三〇年で崩壊することや、¹³⁷Csの一部は落葉等により樹体外に排出されること、さらに成長とともに樹体重量が増えることなどを考慮すれば、直接移行による¹³⁷Cs濃度は長期的には減少していくことが予想されます。

ただし、事故初期に土壌表面にあった¹³⁷Csが年々土壌深度方向に移動すると予想されることから、長期的には経根吸収による影響が次第に大きくなる可能性もあります。また、チェルノブイリ事故後の調査では、土壌条件や樹種、生育環境によって根からの¹³⁷Cs吸収傾向が異なっていたとの報告もあることから、様々なケースでデータを積み重ねて議論する必要があります。

経根吸収により材部の¹³⁷Cs濃度が増加する兆候があれば、成長錐を利用した調査によって、それをいち早く読み取ることができると考えています。当センターの手法を参考として、多くの研究機関が成長錐を用いて調査を始めているところです。また、今後はこの手法をスギ以外の樹種、例えばきのこの栽培用原木として利用されるコナラの調査等にも利用していきたいと考えています。

海岸防災林植樹祭を開催しました。 (植樹リレーにも参加)

公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会

当協会といわき青年林業会議所は、平成二八年六月二五日（土）、いわき市平下神谷字釜の台国有林（新舞子ふれあいの森）内において、海岸防災林植樹祭（以下、「植樹祭」という。）を開催し、併せて「森林（もり）とのきずなづくり植樹リレー（以下、「植樹リレー」という。）」に参加しました。



参加者は全員で力を合わせ楽しく植樹しました。児童も慣れない唐鍬の使い方の指導を受けながら一生懸命に植樹しました。

今回の植樹リレーは、県内に設定した四コースの一つのヒノキコースのスタートとなる記念すべき植樹祭となりました。

植樹祭には、磐城森林管理署、地域住民、NPO法人いわきの森に親しむ会、地元の自由学校の児童、地元企業、福島大学、フクシマ環境未来基地、都内や栃木県、昭和電工ユニオン、トチギ環境未来基地などから約一五〇名が参加しました。当日は土曜日ということもあり地元の名の児童が参加しましたが、この児童の参加が植樹祭の雰囲気盛り上げ花を添えました。

植樹祭に先立ち、植樹リレーのセレモニーが行われ、大勢の参加者が見守る中、当協会の渡邊裕樹常務理事から鈴木克夫いわき青年林業会議所会長に、福島県形のヒノキ製木製プレートとヒノキ製のバトンが手交されました。併せて、植樹祭参加者の方に森林づくりへのメッセージや

思いを書いていただく県産材で作製した短冊を配布しました。この短冊は、二年後に南相馬市において開催される全国植樹祭の式典会場に届けられることになっています。

植樹リレーセレモニーの後、植樹祭の開会式が行われその後、参加者全員が植樹場所に移動し、約一、〇〇〇平方メートルの林地の中の陽当たりがよく植栽条件のよい場所に、皆で力を合わせてクロマツコンテナ苗五〇〇本を植樹しました。

今回の参加者の中には植樹活動の経験豊富な方が多いとのこと、実際よく協力し合って一本一本心を込めて、植付穴に落葉や枝片などの地被物が入らないように、児童の植樹指導もしながら唐鍬や両手で払いよけて丁寧につけていきました。

最後に小林重義磐城森林管理署長、木田章一いわきの森に親しむ会理事長、いわき青年林業会議所会長、当協会常務理事による植樹記念標柱を設置した後、参加者全員で記念写真撮影し、短冊を回収して植樹祭を無事終了しました。



植樹祭終了後、参加者は事前に渡された木製の短冊に森林づくりへのメッセージを記入して回収箱に納めて帰路に着きました。



最後に記念の集合写真を撮影して植樹祭は終了です。

森づくりり活動団体への支援について

(公財) ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

安達太良山の中腹(安達郡大玉村)にある「ふくしま県民の森フォレストパークあだたら」を拠点として活動している「(公財) ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団」では、「福島県森林ボランティアサポートセンター(福島県委託事業)」の運営などを通じて次のような「森づくり活動団体」へのお手伝いを行っています。

平成三〇年に開催される第六九回全国植樹祭に向け、森づくり活動を希望される団体・組織の皆さん、気軽にお声をかけてください。

活動団体や一般県民等への情報提供

◇情報の収集

県内各地の森林ボランティア団体などへの現地取材、電話取材を通じて活動状況をまとめています。

森林関連組織(国や行政、関連



機関等)やマスコミなどから、森づくり活動に関する研修会や参考資料などの情報を随時集めています。

◇情報の提供

取材等を通じて得た情報をもとに、「森林ボランティアサポートセンター」の機能の一環として、ホームページ上において活動団体主催のイベント告知や事業報告などの公表を通じて、多くの団体の活動支援を行っています。

森ボラ新聞(年三回発行)を通じて、県内の森づくり活動組織、森林ボランティアの皆さん、行政機関などへ森づくりに関する様々な情報を提供しています。

年間に多くの県民が訪れる「フォレストパークあだたら」のビジターセンターでは、イベントや研修会などの参加募集チラシなどを配布しています。

人材育成・研修会等の企画・運営

◇森林ボランティアリーダー養成講座の運営(福島県からの委託事業)
森林整備を効果的に、安全に行っ

ていただくためのリーダー養成講座を運営しています。刈り払い機やチェーンソーの講習、救急救命法、森づくりの考え方講習などがその内容です。



◇福島県もりの案内人養成講座の運営(福島県からの受託事業)

県内外の学校や子供たちを中心に、森林環境学習の中心的メンバーとなる「福島県もりの案内人」の養成講座を運営しています。年間で五期十五日の講座を開催し、平成二七年度末現在、県内には五〇〇名を超える方々がもりの案内人として認定を受けています。

森林整備機材の貸し出し

学校や一般県民が参加する「森づくり活動」に必要な森林整備機材を無料で貸し出しています。ヘルメット、鋸、スコップ、鍬など五〇〇〜一〇〇〇名分の機材を常備しています。

活動機会・活動場所の提供

森づくり活動(森林整備や森林環

境学習など)を希望する学校や企業などと、「森づくり活動」団体を結びつけるお手伝いをしています。また、ふくしま県民の森の中でも、森林整備実習が可能な区域を準備しています。

団体などへの運営サポート

◇うつくしま21森林づくりネットワーク事務局

福島県内で森づくり活動を展開しているネットワークの事務局をお預かりし、活動のお手伝いを行います。

◇ふくしま森林・山村多面的機能発揮対策協議会事務局

住宅地などに隣接する里山の整備と利活用を目的とした「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業(林野庁)」の福島県内における地域協議会の事務局をお預かりし、県内で二三団体(平成二八年度)が行っている森づくり活動のお手伝いをしています。

連絡・お問い合わせ先

福島県森林ボランティアサポートセンター
〒九六九一―一三〇二

福島県安達郡大玉村玉井字長久保六八
ふくしま県民の森フォレストパーク内
TEL 〇二四三―四八―二〇四〇

2015年度 第36回東北建築賞受賞

「とうわこども園」

二本松市子育て支援課

1 はじめに

二本松市東和地区において施設の老朽化と人口減少に伴い、4幼稚園と1保育所を統合し、新たに幼保連携型認定こども園を平成24年度より開園することとしました。しかしながら建築工事に着手しようとしていた時期に東日本大震災が発生し、開園時期の延期も検討されましたが、関係各位の尽力により無事平成24年4月に開園を迎えることができたところです。



施設の全景

2 建物概要

- ・名称：二本松市立とうわこども園
- ・所在地：二本松市針道字大町西46番地7
- ・設計監理：福島県建築設計協同組合
(担当設計事務所 有限会社辺見美津男設計室)
- ・施工：主体工事 株式会社ヤマニ建設
：機械設備 株式会社野地工業所
：電気設備 三友電設株式会社二本松営業所
- ・規模：構造 木造集成大断面構造 平屋建て
：建築延床面積 1,256㎡
：竣工 平成24年3月
- ・概要：室構成 保育室（8室）、遊戯室、事務室、教材・印刷室、調理室、一時預かり室
子育て支援センター
：内部仕上げ 床 天然木フローリング t=15
：空調 太陽光利用の輻射式床冷暖房システム
：太陽光設備 15kw



モニュメント

3 木材の利用

この施設は、壁面、床、天井等へ木材をふんだんに使用し、木の温もりに包まれた中で未就学児の保育、教育が行われており、子どもたちの健全な発達の一助となっているところです。遊戯室内には丸太柱があり、子どもたちに直に触れられながら、子供たちの成長を見守っています。

4 おわりに

市では、このこども園のほかに平成28年度までに認定こども園1箇所、保育所1箇所を整備しましたが、いずれも県産材を利用した木造建築であり、木材の利用促進を行っているところです。



遊戯室

木造公共施設及び木材市場研修会を 開催しました。

■県中農林事務所森林林業部

林業課長 丹 治 信 博

ふくしま森林再生事業などによる管内の間伐等森林整備や間伐材などの県産材利用を推進するため、市町村林業担当職員を対象に、間伐材等県産材を用いた木造公共施設及び間伐材を搬入する木材市場の研修会を、普及指導員の地区別研修も兼ねて開催しました。

研修会は、5月18日に市町村職員9名の参加を得て、森林林業部職員9名を合わせて18名で行いました。

木造公共施設研修では、平田村に平成26年度森林整備加速化・林業再生基金事業により整備した「三進煙石コミュニティセンター 緑正館」（事業実施主体：三進金属工業(株)）の研修室で、座学により木材利用担当普及指導員を講師として大断面集成材の特性や製造方法などを研修しました。また、施設を管理している三進金属工業から、郷土料理教室や音楽会などの施設の利用状況の説明を受けました。その後、同センターの施設見学を行い、壁材・床材など県産木材がふんだんに使用され、色彩的にも落ち着いている施設状況や中央ホール天井の曲面で仕上げられた大断面集成材の梁や管柱など市町村の参加者から関心を得ることができました。施設見学後、事務所から、各市町村で策定している「市町村の公共建築物における木材利用の促進に関する方針」に基づき、施設整備関係部局と調整を図りながら、積極的に公共施設の木造化に取り組むよう市町村の参加者に依頼しました。

次に、木材市場研修では、郡山市にある「福島県中央木材市場」において市場総括部長を講師として木材市場の概況、最新の木材市況、利用目的に応じた木材の選別の説明を受けた後、原木の入荷、選別、剥皮、製材及び乾燥などの各工程について見学を行いました。普及指導員からは、木材の放射性物質検査体制や製材品の表面線量調査の現状を説明しました。特に、ふくしま森林再生事業で福島県中央木材市場への間伐材運搬を補助の対象としている理由を説明するとともに、事業実施に伴う間伐材の線量調査について研修しました。木質バイオマスなど新たな木材需要が拡大していることから、積極的に間伐材の搬出を図りながらふくしま森林再生事業を進める必要性について、市町村の参加者の理解をより深めることができました。

今後も、県中農林事務所では、間伐等森林整備や県産材利用の推進を図るため、ふくしま森林再生事業などの事業が円滑に進むよう市町村職員からの研修要望を聞きながら、間伐研修、作業道の作設研修などを行っていく予定です。



木造公共施設研修の様子



木材市場研修の様子

福島県林業労働力確保支援センターだより

林業就業者育成の 取り組みについて



林業就業者キャリア形成支援事業

◎はじめに

福島県林業労働力確保支援センター（以下「支援センター」という。）では、林業の持続的かつ健全な発展のため、林業事業者の雇用管理改善や林業の担い手確保・育成等のための各種事業を行っています。

ここでは、今年度これまでに取り組んだ研修について紹介します。

◎「緑の雇用」現場技能者育成推進事業（フォレストワーカー研修）

認定林業事業者の新規就業者を対象とし、三年間で体系的に技能と知識の習得が得られるよう全国統一のカリキュラムのもと、研修を実施しています。

①指導員能力向上研修

「緑の雇用」を行う事業者で、新たに実地研修を行う際の指導員になる方を対象に、指導員の役割や指導方法などを中心に六月一日から三日までの三日間、「フォレストパークあだたら」で実施し、十七名の方が新たに指導員となりました。



集合研修：フォレストワーカー1年生の造林実習状況

②集合研修

集合研修は、研修生が一箇所に集り合し座学と実習を行うものです。

今年度から、新たなカリキュラムに再編され、一年生二八日間、二年生二九日間、三年生二二日間になりました。

また新たに、一年生の講義に「わな猟」が加わりました。

六月六日から七月七日までに実施した主な集合研修は、一年生では、

刈払機・チェーンソーの特別教育・造林育林・健康管理・森林調査・コンパス測量などです。

二年生では造林・刈払機やチェーンソーのメンテナンス・車両系木材伐出機械特別教育の学科（走行のみ）森林調査、三年生では車両系木材伐出機械特別教育の学科です。

③実地（OJT）研修

事業者が行う研修で、六月一日からスタートしています。

前述した指導員能力向上研修を受講済みの指導員が研修生の指導にあたります。

今年度から研修期間の月数が変わり、一年生が最大八ヶ月、二・三年生が九ヶ月になっています。

◎林業就業者キャリア形成支援事業

林業就業者の定着を促進するためキャリア形成に必要な知識を習得する研修として「林業人材育成研修会」を六月六日に逢瀬公園・緑化センター研修室と郡山市逢瀬町河内地内の公社造林地をお借りして「チェーンソー伐倒の極意」と題して、林業安全技能師範の小田桐久一郎氏に講義と実技をお願いしました。当日は四九名の方が受講されました。

◎基幹林業労働者等研修事業

林業事業者等の現場責任者等への持続可能な林業経営に必要な知識と技術を付与する研修の一環として、

森林作業道作設研修会（初級研修）を六月二八日から七月一日までの四日間で開催しました。

初級研修は、平成二四年度以来の開催で受講者は八名でした。

初日は、研修教材「森林作業道づくり2010」の講義を受けた後、現地踏査を行い、支障木の伐倒を行いました。

二日目は降はバックホウを使っての基本土工や現地発生丸太を使った簡易な軟弱地盤処理等を学びました。



現地でバックホウ操作を行う受講生と指導する豊田講師

特に丸太の固定に使う八寸釘の打ち込みでは、当初は上手く打てなかった受講生も後半では釘を曲げずに打つことができるようになりました。

◎終わりに

今後も様々な研修を予定しており、逐次広報を行いますので、ご活用をお願いします。

林災防だより

林業・木材製造業労災防止協会福島県支部



第6回福島県チェーンソー選手権大会（平成27年10月17日開催）

日頃から当協会の運営活動にご協力ご支援をいただき誠にありがとうございます。

平成二二年十二月「独立行政法人・公益法人等整理合理化委員会報告書」に基づき進めてまいりました協会改革（定款、組織規程、会計規程等の一部改正）につきましては、平成二七年度に概ねとりまとめられ、本年度からは磐城林業協同組合理事長の平子作磨氏が福島県支部長に就任し、新たな体制でスタートしました。

さて、東日本大震災・原発事故から五年半が経過し、県民一丸となり復旧・復興に力を注ぎ普段の生活に近づきつつあります。当支部においても、原発事故後途絶えていた刈払機の安全衛生教育の依頼が会津農林高校からあり、大変喜ばしく、これを契機に各農業高校へ広まればと考えています。また、安全衛生教育において、チェーンソーの技能向上が求められており、福島県林業祭においてチェーンソー選手権を開催することにしております。さらに、林業・製材業のリスクアセスメント集団指導会を中・浜・会津三方部で無料で開催します。いずれも林材業労働災害防止策に資するものであり、事業者・就業者の参加をお待ちしております。

最後に振動障害特殊健診についてです。毎年十一月～十二月に林業の振動工具使用者を対象として県内各方



平成27年度リスクアセスメント集団指導会（会津会場）

部で実施しておりますが、二七年度の受診率は五三割と低い状況にありますので、事業主の皆様には振動工具を使用する労働者の受診促進をよろしくお願いいたします。

【第四一回福島県林業祭】

・期日

平成二八年十月二二日（土）

～十月二三日（日）

・場所

郡山市「福島県林業研究センター」

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 | 17 |

大悲山の犬スギ

樹木医 鈴木俊行



「大悲山の犬スギ」は、南相馬市小高区泉沢字薬師前地内に生育している。南相馬市小高区は旧相馬郡小高町で、生育地は町中心部から県道一二〇号線（浪江鹿島線）を南に二キロほどのところ、大悲山の石仏（大悲山磨崖仏）として親しまれている一つの薬師堂石仏の前に生育している。

大悲山の石仏は三箇所に点在し、この石仏群は東北地方で最大、最古の石仏で、昭和五年に国の史跡に指

定され、日本三大磨崖仏とされている。この石仏群はその特徴などから平安時代に作られたものと推定されているが、作った人たちや歴史的背景も良くわかっていない。一説では、大同年間（八〇六〜八一〇年）に徳一大師によって作られたと伝えられているが、未だ謎の多い石仏群である。本樹の名称は、大悲山の石仏に由来するもので、本樹についてもこの頃に植えられたものといわ

れ、推定樹齢一〇〇〇年の巨木で、昭和三〇年二月四日に県指定天然記念物、昭和五八年二月十七日に県録の文化財に登録された。

本樹の樹種は、ヒノキ科スギ亜科スギ属（以前はスギ科に分類されていた）のスギ（Cryptomeria Japonica）である。スギは日本固有種で、本州北端から屋久島まで自生し、有用樹種として北海道を含め各地で最も多く植林されている。材は主に建築材として利用されるほか、器具、楽器、彫刻など広く利用され、樹皮は外壁や屋根に、葉は乾燥して線香に用いる。近年ではスギ花粉症が問題になっているが、私は子どもの頃、スギの雄花を弾にした「杉玉鉄砲」を作ってよく遊んだものだ。あのころは花粉症の力の字もなかったが、今や花粉症の一人となってしまった。

形状寸法は、樹高四一・〇〇メートル、幹周八・二〇メートル、根元周一〇・五〇メートルの巨樹である。主幹は真っ直ぐに天に向かって伸びているが、主幹南側は地際近くから複雑にうねるように大枝を広げるように伸び、まるで大仏が両手を広げ、私たちを包み込むかのような不思議な姿をしている。枝張りには、東七・七〇メートル、西九・〇〇メートル、南一〇・五〇メートル、北一〇・〇〇メートルと高さの割には大きくない

が、大仏を囲む森の中では、ひときわ際立つスギである。

本樹はいわゆるウラスギ（アシウスギ）の類で、県内各地のスギの巨木のほとんどがこの類である。本樹は十数年前に樹勢衰退が見られたことから、土壌改良や参道の木道化、主幹根元保護柵設置などの治療を実施し、現在は比較的良好な状態となっている。

幹に注連縄が結ばれ、樹下に立つて仰ぐとその迫力に恐ろしささえ感じ、まさに魂が宿る神や仏の化身のように威厳を感じる。

皆さんも、浜通りで最も太いスギにパワーをいただきに会いに行つてはいかがだろうか。





素材の価格〈工場着価格〉(5月15日現在)

(単位: m当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	並	スギ	9 (8~10)	0	(0~0)		10 (9~10)	0	9 (8~10)	0	
		10~14	4.00	並	スギ	11 (10~11)	0	(0~0)		12 (11~13)	0	11 (10~13)	0
	中	14~22	3.00	並	スギ	11 (10~13)	0	10 (10~10)	0	12 (11~14)	0	11 (10~14)	△1
			並	ヒノキ	13 (11~14)	0	(0~0)		16 (14~17)	0	14 (11~17)	0	
		6.00	並	スギ	16 (14~17)	0	10 (10~10)	0	16 (15~16)	0	15 (10~17)	0	
			並	ヒノキ	28 (24~32)	△1	(0~0)		20 (16~24)	0	24 (16~32)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	10 (9~12)	0	10 (10~10)	0	12 (11~13)	0	10 (9~13)	△1	
		4.00	並		10 (9~11)	0	10 (10~10)	△2	11 (11~12)	0	11 (9~12)	0	
		4.00	並	アカマツ	9 (8~11)	0	(0~0)		10 (9~11)	0	9 (8~11)	△1	
		1.80	並		7 (5~10)	△1	(0~0)		8 (7~8)	0	7 (5~10)	△1	
	外	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		29 (27~30)	0	29 (27~30)	0
				並	米マツ	32 (32~32)	△3	31 (31~31)	1	29 (28~30)	0	30 (28~32)	△1
28以下		3.80	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		28 (27~28)	0	28 (27~28)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)		(0~0)		34 (28~39)	0	34 (28~39)	0	
4.00	並	カラマツ	(0~0)		(0~0)		27 (25~28)	0	27 (25~28)	0			
	並	マツ	8 (8~8)	2	(0~0)		5 (5~5)	0	7 (5~8)	1			
パルプ用材	-	-	並	広葉樹	8 (8~8)	0	(0~0)		6 (6~6)	0	7 (6~8)	0	

四月の原木市場への入荷状況は、前月比七割減(前年比一割減)の二六、六二九立方メートルとなっている。
 販売量については、前月比一割減(前年比一割増)の二六、八六立方メートルとなっている。
 五月の価格については弱含みとなっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	7 (6~8)		7 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	10 (9~11)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	13 (12~14)		10 (9~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

潮干狩り当日、現地集合だったため初めてその場所に行ったのですが、そこは知る人ぞ知る(?) 潮干狩りスポットのようで、常連の方々は既にあさりを採っていました。その人達は肩まで水に浸りながらあさりを採っており、「潮干狩りって熊手じゃないんだ」と衝撃を受けました。常連の方は熊手ではなく鋤○という道具を使っていたようですが、熊手も鋤○を使っていたようですが、熊手と比較するとあさりの採れ



人生初の潮干狩り

相双農林事務所 吉田 美穂

福島で生まれ早二〇数年、私は潮干狩りをしたことがありませんでした。配属先が浜通りで海に近いこともあり、潮干狩りの話(噂)は時々耳にしていました。配属二年目となる今年の五月に人生初の潮干狩りを体験しました。

量が倍以上違うことに驚きました。あさり漁といえるほど採っている方もいて、遊びではないのだなど圧倒されました。

職場のFさんが潮干狩り常連ということで、相双地方の某所で一緒に潮干狩りをしていただくことになりました。私は浜辺で熊手を使ってあさりを採る潮干狩りをイメージしており、どのくらい採れるものなのかとわくわくしていました。

Fさん曰く、「あさは採れたその日が一番おいしい」とのこと。砂抜きをしてその日のうちに味噌汁に。家族にも好評で、やはり採れたては違うなど大絶賛でした。そこから私はあさに魅せられ、今回を含め計三回あさを採りに行きました。あさを採る楽しさと、それを食べる美味しさを知ることができて良かったです。Fさんありがとうございました。あさり採りにはまりそうです。



潮干狩り風景

表紙の写真



「もっと、たかく」

第30回ふくしま緑の写真コンクールで特選を受賞した佐藤進吾さん（いわき市）の作品。
撮影場所：いわき市

発行人
相馬 陽光社印刷株式会社

編集
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林総合研究所福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林総合研究所福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）

北海道の江差では、お通夜には江差追分をやってほしい、と言って亡くなる人が少なくないという話を聞いたことがある。「死んだ魂が一番喜ぶのは、果物でもお菓子でもねえ。何よりも声の色だべさ。」（木内 宏「北の波濤」）
今年五月二十七日夕刻、オバマ大統領は、原爆ドームを背に「核なき世界」の決意表明をし、被爆者を含む約六千万人といわれている全ての犠牲者を追悼した。大統領は、ひとつひとつの言葉を慎重に繋ぎながら、それは、日常生活の光景を大切に思う、道徳的な人としての表現にあふれていた。その声は、時に強く、時に慈愛に満ち、時に落胆の色を呈していた。果たしてその大統領の声の色は、亡き魂を慰めることはできたのだろうか…。と、ふと、江差追分の話を思い出す。
今、日本では、憲法改正の声が聞かれるようになったが、いかに改正されようと条文と条文の間には「絶対、戦争はしない。」と埋めつくさなければならぬ。
また、大統領は、「私たちは、戦争の苦しみを経験しました。共に平和を広め、核兵器のない世界を追求する勇気を持ちましょう。」という直筆のメッセージに、自ら折られた千代紙の折り鶴二羽を添えられた。毎年、広島平和記念公園には、世界中から平和の祈りを込めて約一〇万の折り鶴が届けられるそうだ。今や「折り鶴」は、国境を越えて「祈り」という共通の言葉になった。
暦の立秋が過ぎれば、お盆と終戦記念日がやってくる。帰ってくる御霊たちに、それぞれが自分の声の色で伝えたいことはなんだろう…。（都）

はなしの
ひろば

声の色

お知らせコーナー

第41回福島県林業祭 出展者募集

第41回福島県林業祭で展示、販売等を行う団体、企業の皆様を募集しています。

- 開催概要
 - (1) 日時 平成28年10月22日(土) 10:00~16:00
平成28年10月23日(日) 9:30~15:30
 - (2) 会場 福島県林業研究センター(郡山市安積町)
 - 出展申し込み(平成28年8月18日(木)まで)
 - 詳しくは、お問い合わせいただくか、ホームページ
〔福島県 林業振興課〕で検索をご覧ください。
 - お問い合わせ先
 - 福島県林業祭実行委員会事務局
(福島県庁林業振興課内 担当: 蓮沼、小林)
TEL 024-521-7426
- ※イベントの趣旨に沿わない場合等はお断りすることがあります。

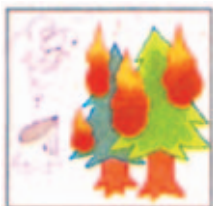
第31回ふくしま緑の写真コンクール 作品募集

緑の大切さを再認識していただくため、「緑の百景」を中心に、身近にある「鎮守の森」や「公園」など、豊かな緑を題材とした作品を募集しています。

- 応募資格
 - 県内の居住者(職業写真家を除く。)とし、作品は自作に限ります。
- 作品
 - カラープリント(デジタル可)四ツ切サイズの一枚写真(ワイドも可)
 - ただし、スライドや組み写真は除きます。
- 応募方法
 - 所定の応募票に必要事項を記入し、提出してください。
- 応募締切
 - 平成28年10月25日(火)(必着)
- お問い合わせ先
 - 福島民報社事業局(TEL 024-531-4171)
 - 公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会緑化推進局(TEL 024-521-1480)

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追及したプロセッサ

- 高耐久性を追及したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

<p>野生獣類から大切な植栽木を守る</p> <p>ヤシマレント</p> <hr/> <p>ヤマビル対策に</p> <p>マリックスター(駆除剤)</p>	<p>蜂さされ防止</p> <p>ハチノックL(巣退治) ハチノックS(携帯用)</p> <hr/> <p>タケを駆除する</p> <p>クロレートS</p>	<p>大切な日本の松を守る 住化グリーン®の林業薬剤</p> <p>ヤシマスミバイン乳剤 ヤシマスミバインMC グリーンガードNEO パークサイドF ヤシマNCS モリエートマイクロカプセル マツグリーン液剤2 マッケンジー</p>	<p>くん蒸用生分解性シート</p> <p>与作シート(茶・白) (折りたたみ式 専用キャリーバック使用)</p> <hr/> <p>竹・ササの防除に</p> <p>クロレートS粒剤</p> <hr/> <p>アメシロなどの害虫防除殺虫剤</p> <p>打ち込み上手</p>
---	---	---	--



住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

<p>チッパシュレッダ</p>  <p>竹もOK! SR3100 出力 18.4kW (質量1,330kg) 水冷ディーゼル 967634301 ¥3,580,000(税抜)</p>	<p>ハンマナイフモア</p>  <p>ZHM1550 排気量 27.5cm³ (質量1600kg) 967081901 ¥5,860,000(税抜)</p>	 <p>ZHM800 排気量 20cm³ (質量230kg) 967088901 ¥748,000(税抜)</p>
--	---	--

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店
(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1